令和7年度 園だより

こうきた 10月号

杉並区立高円寺北子供園

リレーで育つ心の強さ

園長　川嶋 佳恵

さわやかな秋空が広がって心地よい季節となりました。

秋といえば、様々な分野においてとても良い季節と言われています。例えば、食欲の秋、読書の秋、芸術の秋そしてスポーツの秋ですね。いろいろなことが楽しめるとても素敵な季節です。

高円寺北子供園では、10月11日の運動会に向けて、子どもたちが体を動かして楽しむ様子が多くみられるようになりました。今年は、『忍者～忍びの心、解き放て！～』をテーマに掲げ、IMAGINUS の体育館が忍者の世界になります。子どもたちは、どの学年も忍者のモチーフを楽しみながら忍者になり切ったり、忍者の世界をイメージした競技やリズムに取り組んだりします。子どもたちの一生懸命がんばる姿や、ニコニコ笑顔で楽しむ姿を楽しみにしていてくださいね。

さて、運動会といえば、大変盛り上がる年長児のリレーがあります。この競技は、単に、勝ち負けだけでなく、チームとして勝つための作戦を立てたり、チームの一員として自分の走力を上げるために繰り返し取り組んだりする中で、自分や友達の大切さや良さに気付くという人権感覚をも育てる経験になります。リレー遊びを始めた頃は、単に自分が速いかどうかが問題で、仲間のことは気になりません。リレーの順番を決めるときにも、自分の走力を考えず「アンカーがやりたい。」とか、「１番（走者）に走りたい。」等自分の思いだけで、順番を決める様子が見られます。しかし、繰り返し取り組む中で、「〇〇は足が速い。」とか、「〇〇は、いつも抜かれてしまう。」等友達のことが見えてきます。自分が足が速くても、仲間が抜かれてしまうと、負けてしまう経験もします。そうなると、今度は、悔しさから涙を流したり、「〇〇がいるから負けちゃったんだよ。」とチームが負けたことを友達のせいにしたり、「〇〇と一緒のチームがいいな。」と、足が速いと思われる幼児同士で、チームを作ろうとしたりすることもあります。このような話をすると、そうならない様に最初から、メンバーも順番も先生が決めたらいいじゃないかと思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、子供園では、リレー遊びの中で出てくるこのような発言やトラブルを大切に捉え、その場の幼児同士の謝罪で終わらせるのではなく、学級みんなでの話し合いの場や実際にリレー遊びをして振り返る場などを設定し、みんなが自分の思いを自由に出していく中で、それではいけないということに自分たちで気付けたり、自分の思いを受け止められた安心感を感じながら友達との折り合いをつけられるようにしたりします。そのようなやり取りを丁寧に行っていくことで、チームとしての団結力が生まれ、それぞれの個性を尊重しながら順番を決められるようになったり、一人ひとりが、自分のチームの中でのポジションが分かるようになってきたりするのです。足が速い子もそうではない子もみんなが自分の出せる精一杯の力を出して、チームの勝利のために力を合わせて頑張るようになります。

かつて、私が担任していた頃、当時は年長が２クラスあり、クラス対抗のリレーでした。足の速い幼児が15人程のチームの中に５、６人おり、先頭だったり、中盤だったり、アンカーとしての役割を担ったりし、チームの勝利に貢献していました。当日、足の速いＡ児は先頭で走ることになり、張り切ってスタートしたところ…力みすぎて転んでしまいました。誰もが予想しない展開に一瞬空気がシーンとなりました。その子は、立ち上がり、必死で走ったのですが、差は大きく開いてしまいました。２番手のＢ児が走り終えて戻ると、Ａ児が頭を垂れて、顔を隠して待機場所で泣いていました。すると、すっと自分の手を Ａ 児の背中において、「大丈夫。大丈夫。」と小声で言いながらさすり始めました。同じチームの他の幼児もＡ児を責めることはなく、一人ひとりが転んだ友達の分、精一杯走りました。チームは負けてしまったけれど、互いの心を思いやる姿に見ている保育者も、保護者の方も目頭が熱くなったことを覚えています。

リレー遊びの中では、上記のような葛藤体験や失敗体験が溢れるほどあります。このような経験の中で運動的な力はもちろんですが、目に見えない心の強さや優しさが大きく育っていくのです。勝負の世界は、厳しく、みんなが自分のもてる力を精一杯出して頑張ったとしても、どちらかのチームが勝ち、どちらかのチームは負けます。しかし、お互いを高め合いながら当日を迎え、チームのために自分のもてる力を精一杯出して頑張った上での勝敗は、悔しい涙はあったとしても、お互いの頑張りを称え合えるようなすがすがしい気持ちを感じることができるはずです。今年のリレーも２チームに分かれて走ります。どちらのチームも仲間と力を合わせて一生懸命頑張ります。感動する瞬間をお見逃しなく！

≪今月の指導≫

★3歳児　うさぎ組

登園すると、身支度をすばやく終え、すぐに好きな遊びを見付けて遊び始めるようになりました。保育者や他の幼児と一緒に、忍者になりきって巧技台で修行をしたり、体操をしたりして、みんなで体を動かすことを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●やりたい遊びを繰り返し楽しんだり、面白そうな遊びに自分から関わって遊んだりすることを楽しむ。

●保育者や学級の幼児と体を動かす楽しさを感じる。

●自分でできることを自分でやってみようとする。

日々、子どもたちが繰り返し遊んでいることを、運動会でも楽しめるようにしていきます。

★4歳児　くま組

ごっこ遊びや外遊びを楽しみ、友達と一緒に遊ぶことや友達と関わることの嬉しさを感じているようです。また、忍者のイメージをもって体を動かしたり道具をつくったりして、運動会に向けての遊びや活動を楽しんでいます。一方で、思いがぶつかる場面も増えています。ぶつかる場面も大切な学びの機会と捉え、それぞれの思いを受け止めながら、相手の気持ちにも気付けるよう援助していきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●いろいろな遊びに関心をもって自ら関わり、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

●みんなで体を動かす心地よさを感じ、いろいろな動きを楽しむ。

●荷物の始末や片付けなど、身の回りのことを丁寧に行う。

運動会で楽しんだことが他の遊びにも広がり、心地よい気候の中で体をたくさん動かして遊べるようにしていきます。

★5歳児　ぞう組

忍者からの手紙が来たことをきっかけに、忍者になって体を動かしたり、つくった忍者人形を修行させたりして、忍者のイメージで遊ぶことを楽しんでいます。忍者の城をつくりたいという考えから、学級で一つ大きな城をつくり始めました。また、戸外に出て、リレーや綱取りや踊りにも繰り返し取り組んでいます。チームとしての勝敗を意識するようになり、同じチームの友達を一生懸命応援したり作戦を立てたりする姿もあります。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●友達と考えを出し合いながら、めあてをもって遊ぶ楽しさを味わう。

●運動会に向かって自分の力を発揮し、やり遂げた達成感や満足感を味わう。

●１日の生活に見通しをもち、友達と声を掛け合いながら生活を進める。

運動会には見通しをもって取り組み、一人ひとりの力が発揮できるようにしていきます。また、運動会を通して深まった友達との関りを大切にしながら遊びを楽しめるようにしていきます。